

MEDICA/COMPAMED 2009 Final Report



MEDICA—40周年を盛大に祝う
市場のニーズに合った新製品やサービスが会場いっぱい

MEDICA 出展者も来場者も記録

40周年を迎えたMEDICAは医師や病院関係者さらには業界全体の目を釘付けにした。

2009年11月18日から21日の4日間の会期中に来場した業界専門家の数は世界100カ国以上から138,000人を超えた（前回2008年度137,000人）。そのうち45%はドイツ以外からの来場者。特に来場者が増加したのはアジアとアラブ諸国の経済発展の進む国々からである。出展企業数は約60カ国から4324社（前回2008年度4,279社）。

日本からは今回70社が出展（前回2008年度55社）、過去最高を記録した。この数は日本から直接出展を申し込んだ企業数であるが、ヨーロッパの子会社を通じて出展した企業数を加えると90社強となる。



日本出展者の半数は5年以上の継続出展者であるが、今回はジェトロや神戸市、大阪商工会議所がグループ出展し、各地域の医療機器メーカーの製品の海外市場参入のサポートやPRを行った。また経済不況の中、東京都の展示会参加費用助成金を利用して出展する企業もあり、支援を必要とする企業に対する国や自治体のサポートが見られた。

日本からの出展者の多くが、技術力の高い「ジャパン・ブランド」の利点を活用するため、メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン(MDJ)が用意した日の丸の小旗を付けてアピールした。MDJは今回も日本からの出展企業や来場者のケアのため、7号館にインフォメーションブースを設けたが、連日多くの利用者があり、来年度の出展準備などについてアドバイスを提供した。来年度は今年度に比べ、日本からの出展社は、国内市場の状況も影響してさらに増加するものと予想される。また外国の来場者から日本製品に関する問い合わせも多く、希望のアイテムを出展している企業を逐次紹介した。日本企業を外国からのバイヤーに紹介するため、MDJは日本の出展者のみを編集した英文のダイレクトリーを作成し、会場内各ホールのインフォメーションカウンターで3,000部を配布し、外国人バイヤーから高い評価を受けた。

また6号館に日本企業として出展申請したSantakuは、ブースに「JAPAN」の文字を大きく掲げたが、実態は中国企業のグループ出展であったため、主催者は虚偽と判断し、来年からの同社の出展を禁止した。

「新製品開発のサイクル短期化が、MEDICAを世界No.1の見本市に成長させている紛れもない要素である。会場では毎年革新的な新しい製品の発表が増加し続けている。またドイツ政府が発表した景気刺激策の第2弾（総額14億ユーロ、約1800億円）には病院や医療施設も含まれており、これまで比較的少なかった国内からの病院関係の来場者が増加

した要因となった」とMEDICAの主催・運営者メッセ・デュッセルドルフの取締役W. ニーダーゲーカー (Wilhelm Niedergöcker) は今回のMEDICAでコメントしている。

MEDICAの会場では今回も様々なトピクスで溢れたが、その中でも特に「イメージング(画像化)」のテーマが取りざたされた。中心になったのは神経疾病用向け新世代の超音波診断装置である。ボタンひとつ押すことで、神経そのものだけでなく周りの組織や腫瘍、炎症、破損なども映し出されるのである。その他に出展品の中で家庭内治療や遠隔治療に関する製品が新しい発展を遂げていることが新しい傾向といえる。これまで長い間家庭内で見られる器具としては電子体温計くらいのものであったが、今回はこの分野のバリエーションは大幅に膨らんだ。例えば小型の心電計セットなどである。今回はまだ研究段階ではあるが衣服に組み込まれた監視システムが数多く展示されていた。着装しやすく長時間にわたる患者のモニタリングが可能となる。

同時開催のCOMPAMEDには1万6千人以上が来場

もうひとつの特記すべきことは、MEDICAの来場者138,000人のうち16,000人が医療機器の下請けメーカーを専門に扱ったCOMPAMEDにも関心を示したことである。8aと8bの両ホールで35カ国から518の出展企業がコンポーネントから単体部品、マイクロシステム技術からナノテクノロジーの応用、個別受注のソリューションまでを展示発表した。日本からは2社の出展者があった(前回2008年度1社)。

ドイツマイクロ技術協会(IVAM)が開催した「医療機器向けハイテク」フォーラムはその他のフォーラムにより製品の発展方向や医療機器の品質向上の方向が明確になった。

日本人向けセミナーも高評

日本の来場者と出展者に欧州の市場について必要な情報を提供するため、(株)メッセ・デュッセルドルフ・ジャパンは11月19日にドイツマイクロ技術協会IVAM及びメッセ・デュッセルドルフ本社の協力で日本人向けセミナーを開催した。発表テーマは日本側の希望に応じ「ヨーロッパにおける医療機器製造技術の動向」、「パーツからモジュールへ-医療機器産業における下請け企業の役割の変化」、「ヨーロッパ市場への参入-日系企業の経験から」などであった。同時通訳付きのフォーラムには30人が参加し、高い評価を受けた。MDJでは当日発表の日本語版レジュメを一部5,000円で販売している。

次回MEDICAの会期は2010年11月17日から20日まで

COMPAMEDは2010年11月17日から19日まで

www.medicade.com www.compamed.de

MEDICA/COMPAMEDに関するお問い合わせは:

(株)メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン

担当: 服部

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町4-1 ニューオータニガーデンコート7F

Tel 03-5210-9951 Fax 03-5210-9959 mdj@messe-dus.co.jp www.messe-dus.co.jp